「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
（当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください）

	2024 年 11 月 6 日
所属部局・学年	野生動物研究センター・M1
氏　名	田之畑穂花

１．派遣国・場所（○○国、○○地域）

日本、熊本県、熊本サンクチュアリ

２．研究課題名（○○の調査、および○○での実験）

動物福祉実習

３．派遣期間（本邦出発から帰国まで）

2024 年 10 月 15 日　～　2024 年 10 月 18 日　（4 日間）

４．主な受入機関及び受入研究者（○○大学○○研究所、○○博士／○○動物園、キュレーター、○○氏）

京都大学野生動物研究センター　平田聡先生

５．所期の目的の遂行状況及び成果（研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）

写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

今回の実習では、飼育動物の環境エンリッチメントについて学んだ。

・スケジュール
10/15　集合・熊本サンクチュアリ見学
10/16　餌やり、消防ホースを用いたハンモック作り、カラスのおもちゃ作り
10/17　カラス小屋の整備
10/18　帰宅

【１日目】
　熊本サンクチュアリに到着した後、熊本サンクチュアリで飼育されているチンパンジーとボノボを見た。チンパンジーは私たちを見ると、興味を引こうと柵にしがみついて音をたてたり、砂や水を投げたりしてきた。オスの群れの中に、口に含んだ水を人間にかけるのが好きなチンパンジーがいて、平田先生や島田さんといった見慣れた人以外をターゲットにしてかけてきた。その水をかける行動もずっと観察していると、チンパンジーはこちらの動きや表情を見てタイミングを見計らっているということが分かった。こちらが、かけてくるだろうなと構えていると、かけずに水をそのまま飲みこんだり、チンパンジーをよそ目に会話をしていると不意打ちでかけてきたりした。チンパンジーが思っていたより、人間の目線や表情の変化を鋭く感じ取っていることに驚いた。
　ボノボが私たちを見たときの反応で、チンパンジーと異なる箇所は、ボノボは人間のうなずく動作を真似て一緒にうなずいたり、木の枝を差し出してきたりする点だ。私は一頭のボノボとうなずきあっていると、そのボノボは機嫌を良くしたのか、消防ホースの切れ端を私にくれた。チンパンジーよりもボノボの方がより人間らしい行動をするなと感じた。
　上記とは別のチンパンジーの群れの観察を行った際、自分の糞を食べているチンパンジーを目にした。このような異常行動は野生下では見られず、飼育下でやることがないときに退屈でストレスを感じて、起きてしまうそうだ。この個体の場合は、子供のころの飼育環境がエンリッチメントに乏しく、その時にやっていた癖で、いまだに糞を食べてしまうようだ。動物園実習でも学んだように、飼育動物が飼育施設の中で時間を持て余さないように工夫するのはとても大事なことだと改めて感じた。

ボノボからもらった消防ホース

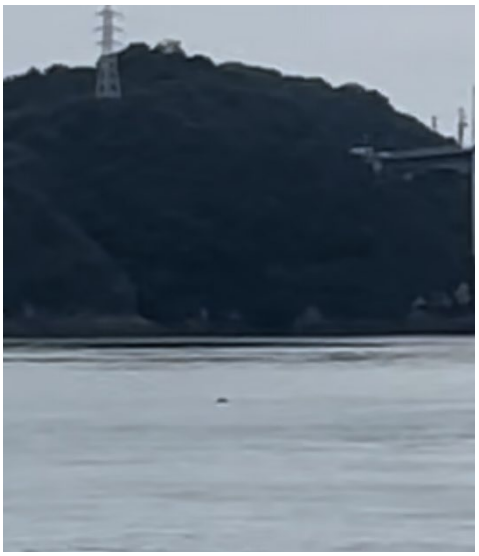
【２日目】
　消防ホースを用いてボノボのためのハンモックを作った。２本の消防ホースを交互に編んで、作成したが、ボノボが落ちないようにきつく締めるのは力が必要で大変だった。作ったあとは、ボノボのケージに取り付けて、実際に使用して安全かどうか確認した。天井に結びつけるために梯子を使って作業したが、消防ホースは固いので、結びつけるに時間がかかった。飼育スタッフの方は毎回このように作っているのだと知って、大変だなと思った。
　午後はカラスのためのおもちゃを作った。ペットボトルに穴をいくつかあけて、その中に餌を入れ、ペットボトルをよく転がさないと餌が出てこない仕組みのおもちゃにした。他のメンバーは、カラス小屋に取り付けるステップを作るための竹を外に切りに行っていた。竹を切りに行くところから作っていて、すごく手間暇かけているのだなと思った。

消防ホースで作ったハンモック

試しに使ったときの写真

【３日目】
　カラス小屋の整備と、カラスのための滑り台を作った。私は、前半はカラス小屋に敷く土を荷台に乗せて運ぶ作業を行った。カラス小屋に敷く土は、定期的に外に出して乾かして入れるというのを繰り返して、土を再利用しているそうだ。いつもは板原さんが一人でこの作業をしているそうで大変だなと思った。土を敷いた後は、その土の中にプラスチックや金属のゴミが入っていないかを確認し、入っていた場合は除去するという作業を行った。カラスのための滑り台は、トタン板にみんなで絵を描いて、最後にそれをドライバーで設置した。カラスが使ってくれると嬉しい。
　晩御飯の買い出しに行く途中に、港に寄ってスナメリの観察をした。港の中におそらく３～５頭くらいいるようだった。背びれが本当に無かった。

カラス小屋につけた滑り台



スナメリの頭

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

６．その他（特記事項など）

実習中は、平田聡先生、板原さん、島田さんにご尽力いただき、充実した日々を過ごせた。重ねて深く感謝申し上げる。